

福山大学 大学教育センター 大学教育論叢
創刊号（2014年度） 2015年3月発行

言語学習記録が言語学習活動の振り返りに与える影響

米崎 里

言語学習記録が言語学習活動の 振り返りに与える影響

米崎 里*

Influences of Language Learning Journals on EFL Learners' Self-reflection in Language Activities

Michi YONEZAKI*

ABSTRACT

The current study reports how Japanese EFL learners' self-reflection was promoted through writing a language learning journal. The study used two types of language learning journals: one with more closed-ended questions and the other with more open-ended questions. Both types of language learning journals enabled EFL learners to reflect upon their language learning, set goals for their learning, and enhance their learning motivation. However, the open-ended questions type of journal was more effective. The study also found that it was more difficult for learners with low English proficiency to reflect upon their learning activities in terms of describing their learning problems or finding learning strategies. This may be because they do not have enough metacognitive knowledge or skills they can use.

キーワード：言語学習記録・学習の振り返り・メタ認知能力・言語学習活動

1. はじめに

昨今、大学教育では、教育と学習を改善する動きが進んでおり、学習者が主体となり、かつ自律的な学習者の育成を目指した学習が推進されている。たとえば、自律的な学習者の育成を促す学習ツールとして、ポートフォリオがある。もともと言語学習のためのポートフォリオは、欧州評議会 (Council of Europe) のヨーロッパ言語ポートフォリオ (European Language Portfolio: ELP) が引き金となり、昨今では、日本の英語学習者を対象とした実践研究も報告されている (たとえば、Apple, 2006; Eric, 2011; 峯石, 2002; 下, 2006; 米田・西村・細川, 2014 など)。いずれの研究も、自律的な学習者の育成と学習者主体の学習を基に、動機付けの向上と学習効果の向上等、ポートフォリオの有効性が報告されている。

ポートフォリオは、現在、多種多様に利用されているが、もともとポートフォリオの概念は、おおざっぱに言うと、収集 (collection)、選択 (selection)、振り返り (selection) から構成されている (Apple, 2006)。Apple (2006) によると、収集は、文字通り、学習者の作品や、学習過程における成果がわかるものを集めておくことを意味する。また選択は、収集した中で学習者がポートフォリオの中に入れておくべきものを自ら選んだものを指し、これは自らが選ぶという点で、学習者の自律性が関わ

*大学教育センター准教授

ってくる。そして、学習を評価する目的で振り返りがある。この学習の振り返りは、学習者自身だけでなく、教師や仲間からのフィードバックも含まれる。本研究は、このポートフォリオの概念の中で、学習者自身による学習の振り返りに焦点をあてる。

2. 学習の振り返りの意義

学習の振り返りなしではポートフォリオは単なるプリントを集めたファイルに過ぎないとされおり（下，2006）、どの言語学習場面においても、自分の学習活動を内省することは重要であるとされている。たとえば Apple（2006）は、その理由として、内省活動を行うことにより、学習者は、教師や他の学習者からのフィードバックだけでなく、モニタリング、自己評価、自己修正といったメタ認知のプロセスに関わることができると述べている。また金（2009）は、自律的学習を促すメタ認知的知識は、体験と内省を繰り返す中で、学習者がすでに持っている観点や知識が修正されたり、より強化されるため、言語学習において内省活動を取り入れることは重要であると強調している。

図1は Kohonen（2002）が示す教育機関における経験を軸にした外国語学習における枠組みである。経験を軸にした外国語学習においては、学習者は、知識（knowledge）、スキル（skills）、認識（awareness）の3つの関連付けられる領域（1. personal awareness、2. task awareness、3. process awareness）の中で自分の能力を発展させていくよう指導される（Kohonen, 2002, p.8）。とりわけ、学習プロセスの認識（process awareness: learning）の領域では、学習者に自分の学習をモニタリングし、自己評価や、内省活動を行うことが促進される。

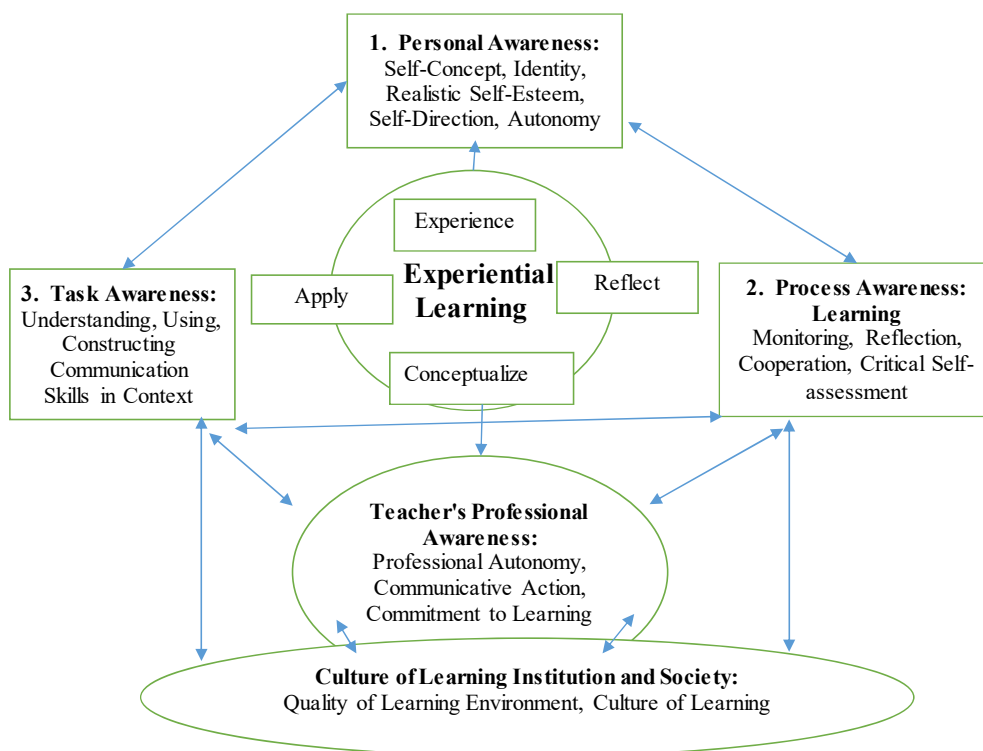


図1 Kohonen（2002）による経験的外国語教育におけるホリスティックな枠組み

Kohonen(2002, p.10)は、経験を軸とした外国語教育においては、内省活動が核となっており、内省活動の重要性を以下のように述べている。

As shown by the cyclic process in the middle of the diagram, experiential learning constitute the

reflective core orientation at each level. Intuitive experiences are grasped and made sense of through conscious reflection and abstract conceptualization. This involves a tension between unconscious and conscious learning. The experience is transformed into personally meaningful learning through reflection and active experimentation.

しかしながら、学習プロセスを認識するための内省活動には、学習者のメタ認知要素がかかわってくる。ブルーアー (1997) は、メタ認知を、「思考について思考する能力であり、問題解決者としての自分自身に意識的に気づく能力であり、自分の心的過程をモニタしてコントロールする能力 (p.60)」と定義づけている。このメタ認知能力は効果的な内省活動を行う上で必要な能力であるが (清田, 2012)、メタ認知能力は高次の技能とされているため (ブルーアー, 1997)、英語を苦手とする学習者には、ある程度の教育的介入が必要となってくる。確かに、いきなり学習者に本日の学習活動を振り返りなさいと指示したところで、何をどう振り返っていいかわからないだろう。筆者が担当する学生に対しても同様である。そこで、本年度、英語授業の学習活動の内省を意図的に行うことができるよう「言語学習記録 (language learning biography)」を作成し、学習者が毎授業後、言語学習記録を記載することにより、自分の学習を振り返らせる試みを行った。

3. 方法

(1) 目的

本研究は、学習者が毎回授業後に言語学習記録を書くことにより、学習活動の振り返りができたか、また学習に対する質的变化が見られたかどうかを調査することを目的とし、次の4点を研究課題(RQ)とした。

RQ1: 言語学習記録を書くことにより、学習者は自分の学習の振り返りが可能であるか。

RQ2: 学習者に言語学習記録を記載させる場合、簡易型言語学習記録、記述型言語学習記録のどちらのほうが有効的か。

RQ3: 言語学習記録を書くことにより、学習者は学習に対してどのような反応や効果を見せるか。また簡易型言語学習記録、記述型言語学習記録でその反応と効果は異なるか。

RQ4: 学習者は、言語学習のどの側面に注目して学習を振り返っているか。成績上位者と下位者では振り返りの観点は異なるのか。

(2) 方法

1) 分析対象者

筆者が平成 26 年度に担当した共通科目英語発展 I の学生を対象とした。できるだけ一般化を試みるために、3つのグループを設定し、それぞれ実験群、統制群を設定した。実験群は記述型の言語学習記録を取り入れたグループ、統制群は簡易型の言語学習記録を取り入れたグループとする。表 1 は、それぞれのグループと統制群と実験群の概要である。グループ A は 1 年生を対象としたもので、統制群を薬学部 (40 名)、実験群を人間文化学部 (31 名) とした。またグループ B は経済学部 2 年生 (統制群 24 名、実験群 18 名) を、グループ C は生命工学部 2 年生 (統制群 35 名、実験群 42 名) を対象とした。それぞれのグループの統制群と実験群は、授業は別々に行っているが、授業内容および授業時間数は同じである。

表1 統制群と実験群の概要

	統制群	(n)	実験群	(n)
グループA	薬学部1年生	40	人間文化学部1年生	31
グループB	経済学部2年生	24	経済学部2年生	18
グループC	生命工学部2年生	35	生命工学部2年生	42

2) 調査時期と回数

調査時期は、平成26年度前期(4月7日～7月25日)の約4か月である。前期授業15回の中で、授業後毎回言語学習記録を記載させた。ただし、第1回目は言語ポートフォリオ(My Language Portfolio)を記載し、第7回で前期の振り返りシートを記載したため、言語学習記録は記載していない。また、第15回目は音読テストを実施したため、言語学習記録の記載はしていない。よって、どのグループも、合計12回分の言語学習記録を書き、12回分の言語学習記録を分析対象とした。

3) 言語学習記録の内容

グループA・B・Cの統制群には簡易型の言語学習記録を用いた。一方、グループA・B・Cの実験群には記述型の言語学習記録を用いた、表2はそれぞれの言語学習記録の型の項目を表している(実際の言語学習記録はAppendix1と2を参照)。簡易型の言語学習記録と記述型の言語学習記録で共通項目は、(1)宿題に対する取り組みの自己評価(5件法)、(2)予習や復習など家庭学習時間の記入、(3)小テストの点数の記入、(4)授業が理解できたか自己評価(5件法)の4項目である。一方、表2の✓印を示している項目が簡易型、記述型の言語学習記録で異なっている。簡易型の言語学習記録では、主に、授業を熱心に取り組めたかどうか、また目標が達成できたかどうかを自己評価(5件法)させている。そして、その日の授業活動に対する振り返りを記述させた。一方、記述型の言語学習記録は、その日の目標を自分で書き、その日の授業でできたことと、課題であることを記述させた。課題となる活動の中で、その解決法がわかっていたら記述させた。

表2 ジャーナル記載項目

	簡易型(統制群用)	記述型(実験群用)
1	宿題に対する取り組みを自己評価(選択)	
2	予習や復習など、家庭学習時間を記入	
3	小テストの点数を記入	
4	授業を理解できたか自己評価(選択)	
✓5	授業を熱心に取り組めたか自己評価(選択)	目標を記述、自己評価の記載
✓6	目標が達成できたか自己評価(選択)	授業で達成できたことを記述
✓7	楽しかった(難しかった、簡単だった)活動を記述	改善が必要な項目を記述、またその解決法がわかっていたら記述

4) 研究方法

RQ1～RQ3に関しては、前期授業の最後の時間に実施したアンケート結果を用いる。アンケートは、6件法による5項目と自由記述から成り立っており、その項目は表3に示している。

RQ4に関しては、それぞれの言語学習記録の記述部分を分析した。実験群(記述型言語学習記録)においては、授業で達成できたこと、できなかったこと、およびその解決法の記述部分を分析した。また、統制群(簡易型言語学習記録)に関しては、授業の活動(楽しかった、難しかった、簡単だった活動)に関するコメントの記述部分を分析した。統制群、実験群とも、グループAのみを対象とし、英語成績者上位者5名と下位者5名のそれぞれの記述を比較分析した。

表3 アンケート内容

	とても 思う	そう 思う	やや 思う	やや 思わない	そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
①言語学習記録を意欲的に書けたか	6	5	4	3	2	1
②自分の学習を振り返ることができたか	6	5	4	3	2	1
③その日の学習の自分の目標設定が明確にできたか	6	5	4	3	2	1
④自分の学習の課題や進捗状況の把握ができたか	6	5	4	3	2	1
⑤学習意欲が高まったか	6	5	4	3	2	1
⑥自分の学習を改善することができたか	6	5	4	3	2	1

この種の言語学習記録を書くことよかつた点、悪かつた点（自由記述）

4. 結果

(1) アンケートによる結果

表4はグループA・B・Cそれぞれのアンケート結果である。それぞれのグループの統制群と実験群の平均値、および平均値の差、および効果量（*d*）を記している。有意差が見られた場合には、* ($p < 0.05$)、** ($p < 0.01$)を示している。

表4 アンケート結果

	グループA (n=71)			
	統制群	実験群	差	<i>d</i>
①ジャーナルを意欲的に書けたか	4.30	4.90	0.60	0.62*
②自分の学習を振り返ることができたか	4.18	4.70	0.52	0.61*
③その日の学習の自分の目標設定が明確にできたか	3.88	4.70	0.82	0.75**
④自分の学習の課題や進捗状況の把握ができたか	4.28	4.67	0.39	0.51*
⑤学習意欲が高まったか	4.13	4.52	0.39	0.43
⑥自分の学習を改善することができたか	3.83	4.39	0.56	0.62*

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ *d* = 効果量

	グループB (n=42)			
	統制群	実験群	差	<i>d</i>
①ジャーナルを意欲的に書けたか	4.50	5.08	0.58	0.64*
②自分の学習を振り返ることができたか	4.28	4.78	0.50	0.58*
③その日の学習の自分の目標設定が明確にできたか	4.00	4.34	0.34	0.37
④自分の学習の課題や進捗状況の把握ができたか	4.06	4.52	0.46	0.43
⑤学習意欲が高まったか	4.17	4.38	0.21	0.22
⑥自分の学習を改善することができたか	4.11	4.24	0.13	0.15

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ *d* = 効果量

	グループC (n=77)			
	統制群	実験群	差	d
①ジャーナルを意欲的に書けたか	4.37	4.51	0.14	0.14
②自分の学習を振り返ることができたか	3.97	4.48	0.51	0.55*
③その日の学習の自分の目標設定が明確にできたか	3.89	4.41	0.52	0.50*
④自分の学習の課題や進捗状況の把握ができたか	4.23	4.56	0.33	0.37
⑤学習意欲が高まったか	3.94	4.43	0.49	0.48*
⑥自分の学習を改善することができたか	3.68	4.43	0.75	0.72**

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ d = 効果量

まず、どのグループにおいても、統制群より実験群の平均値が高いことが注目される。どの項目に対しても平均値 4 以上を得ていることから、実験群においては言語学習記録を記載することにより、自分の学習の振り返り、学習目標の設定の明確化、自分の学習の課題や進捗状況の把握につながったと言えそうである。これは実験前にこちらが予測していたとおりである。実験群の学習意欲の向上や学習の改善に関する項目は、他の項目ほど高い平均値を出していないが、一応、平均値 4 以上を得ている。言語学習記録の記載だけで学習意欲の向上や学習の改善につながるとは当初予測していなかったが、実験群においてはある程度つながったと言えそうである。

一方、統制群においては、実験群の平均値よりは低いものの、言語学習記録を意欲的に書き、自分の学習を振り返ることができ、自分の学習の課題や進捗状況の把握にはつながっており、ある程度の成果は出ていると言えそうである。統制群においても、グループによってはすべての項目で平均値 4 以上を出しているグループもあるが、4 以下の項目も見られる。とりわけ、平均値 4 以下の項目は、言語学習記録において記述をしていない項目（たとえば、その日の学習の自分の目標設定や、自分の学習の改善に関する項目）が低くなっている。

いずれにせよ、実験群のほうが統制群よりも平均値が高く、いくつかの項目で有意差が見られる理由は、実験群の言語学習記録は、自分の言葉で書く記述部分が多く、たとえば、自分の学習の目標設定や、自分の学習課題や進捗状況を記述することにより、それだけ自分の学習を振り返る時間を取ることができたからだと考えられる。

(2) 記述の結果

アンケートの中で、言語学習記録を書くことの良かった点、あるいは悪かった点への自由記述の欄を設けた。以下は、学生の記述内容を観点ごとに整理した一覧である。一番多かった記述は、言語学習記録を書くことによって、その日の学習に対する振り返りができたということである。その日の学習で自分は何を学ぶことができたか、自分の課題は何かを把握することができるというコメントが多く見られた。また目標を設定することは、学習に対する意欲、動機につながるという記述も多く見られた。小テストの点数や家庭学習時間を書くことも、動機づけにつながったという学生も見られた。

毎回言語学習記録に対してのコメントを書くことは、時間がかかり手間であった。しかしながら、紙面を通してではあるが、学生との対話が可能である。教師のコメントを楽しみにしている学生もいるので、ここは一言でもいいので、無理のない程度で、コメントを書く必要があるだろう。

一方、言語学習記録に対して悪かった点として、目標を設定する際（実験群）、何を目標にしているかわからないという学習者もいた。授業中に「本日の授業の目標」という形で、「～ができるようになる」という形で示したのだが、何人かの学生にとっては、あいまいだったかもしれない。

○良かった点（抜粋）

学習に関して

- ・その日の授業を振り返ることができてよかった。
- ・授業でどれだけ真面目に取り組めたか自己点検できる点がよかった。
- ・自分の目標とそれを達成できたかということがわかりよかった。
- ・目標ややることが明確で授業がやりやすかった。
- ・自分がどこを理解できたか改めて確認することができた。
- ・この授業で何をしたらかをきちんと振り返り把握できた。
- ・自分が何ができなかったか、できたかが、客観的に見ることができた。
- ・目標を持つことができた。
- ・自分の弱点がわかるようになった。
- ・目標を設けることにより集中できた。
- ・自分ができたこととできなかったことがあとから見てもわかるのでよいと思った。
- ・自分の改善点を考える機会になったのでよかったと思う。
- ・講義中、講義後にやるべきことがわかった。
- ・授業でしたことを確実に把握できるのでいい。

動機・意欲に関して

- ・振り返りができることや目標を決めることで意欲的になれる。
- ・何時間予習したかを書くことができるので、意欲的に予習しようと思った。
- ・目標を設定することで、目標を達成しようと思おうと思った。
- ・目標を立てることで意欲が上昇したかもしれない。
- ・毎回の反省をすることができて、次につなげることができた。
- ・目標達成できたときには **very good** がつけられることがうれしかった。
- ・いつもよかったこと、頑張ったことを書いて頑張ろうと思えた。
- ・小テストのポインを書くところは、悪かったら次頑張ろうと思えた。

教師について

- ・先生からの返事がうれしかった。
- ・先生のコメントが面白かった。
- ・先生との会話が生まれた。
- ・先生のことを知れた。
- ・コメントを付けていただけなので楽しくできた。

学習方略に関して

- ・毎日の学習でそれぞれ目標を決めることでやることがはっきりし、スムーズに取り組めた。

○悪かった点

- ・自分で目標を決めるのが難しかった。
- ・設問を英語ではなく日本語で書いてほしい。
- ・その日の目標を決めて達成を目指して頑張れたが、授業終了後に書くより、授業の最初に（目標を）書きたかった。

(3) 振り返りの観点

次に、成績上位者と下位者ではどのような観点で学習を振り返っているか、また振り返りのレベルを分析した。分析対象者は、Aグループの実験群、統制群ともに、英語成績上位者5名と下位者5名の記述部分を比較した。上位群・下位群の抽出は、4月に行ったプレメントテスト(A.C.E. Placement

Test : 英語運用能力評価協会)の結果と、前期の定期考査(8月上旬)の成績をもとにした。また実験群と統制群では記述内容が異なるため、それぞれ別々に分析をした。統制群においては、その日の授業活動に対する振り返りの記述部分を分析した。実験群においては、「授業でできたこと」、「授業でできなかったこと」「(授業でできなかったことに対する)解決法(わかっていれば)」を分析した。

統制群の振り返りの観点は、授業中に行ったタスク活動や学習内容に関するが多かったが、学習者自身に関する事、他の学習者(とりわけペアやグループ学習)に関する内容も見られた。振り返りの観点に関しては上位群、下位群ともほぼ同じ観点で振り返っていた。表5は、統制群における振り返りの項目が同じものに対して、上位者と下位者の記述の比較である。上位群と下位群それぞれ5名の記述部分の抽出であるため、ごく限られたものであるが、上位群、下位群の振り返りのレベルにそれほど差がないように思える。上位群のほうが、下位群より若干詳細に述べているが、その多くが事実や気づきの再生のみでとどまっている記述が多かった。

表5 Aグループ統制群の授業の活動に対する振り返りの比較

内容	下位群	上位群
本文内容に関して	Coco Chanelはすごい人だ!	Coco Chanelが言っていたようにカラットだけでなく中身の輝く女性になりたいと思いました。
予習に関して	予習したおかげで本文がある程度分かるので授業ですんなり読むことができた。	深く読んでいたら不思議に思う英語がたくさんあった。新しい知識が増えてよかった。
Q&A作りの活動に関して	Q&Aを作るのは難しいけどいい勉強になる。	疑問詞が難しいと思った。間違いを直すのが難しかった。
ディクテーションに関して	ディクテーションの聞き取りが難しかった。	またディクテーションでスペルミス。次こそ満点。
グループ学習に関して	班のみんなはしっかりと調べていてとても頼りになった。	グループに分かれてすることが新鮮で楽しかった。予習を頑張ろうと思った。
発音練習に関して	/th/で舌を出して発音するよう心がけようと思った。	/th/の発音が難しかったが、発音の仕方がわかりました。

一方、実験群の記述部分の上位群と下位群の比較であるが、実験群の言語学習記録では、主に「授業でできたこと」、「授業でできなかったこと」「(授業でできなかったことに対する)解決法(わかっていれば)」を記述するように求めた。その結果、振り返りの観点は、統制群と同様、授業中に行ったタスク活動や学習内容、授業の様子、学習者自身に関する事、他の学習者(とりわけペアやグループ学習)に関する記述が見られた。振り返りの観点に関しては上位群、下位群ともほぼ同じ観点で振り返っていたものの、振り返りのレベルが上位者と下位者では異なっていた。表6は実験群において、振り返りの観点が同じ項目であり、上位群と下位群で振り返りのレベルの差が顕著であったものを挙げている。

上位群は授業で具体的に何ができたか、何がわかったかを記述しているが、下位群は具体的な記述内容ができておらず、たとえば「本文を見直せた」「グループ学習ができた」レベルにとどまっており、実際本文のどの部分を見直せたか、グループ学習でどのような活動ができたかといった記述はほとんど見られなかった。

表6 Aグループ実験群の「授業でできたこと」の振り返りの比較

内容	下位群	上位群
本文内容に関して	本文の内容理解。	予習したときは難しく、内容があまり理解できなかったが、授業を通して本文が理解できた。
文法に関して	文法を見直せた	疑問文の作り方 (who) が少しわかった。
ペア学習に関して	友達との問答をがんばった。	ペアとコミュニケーションが取れ、問題 (わからなかったところ) を見直すことができた。
グループ学習に関して	グループ学習ができた。	班の人がポイントをちゃんと説明してくれ、自分の説明もできた。班の人とともに内容の確認と文法の確認ができた。
発音練習に関して	発音ができた	発音の t r を一音のつもりで発音することがわかった。
	pとvの発音をした	bとvの発音の違いを知ることができた。

二つ目の記述部分である「改善が必要な項目及びその解決策」では、下位群は、改善が必要な項目は、たとえば「単語力」「リスニング力」といったように何とか分析できているが、その解決策に至る記述はほとんど見られなかった。記述があったとしても「がんばる」レベルにとどまっている。一方、上位群は具体的に何をどうしたらいいかを十分とは言わないまでも記述している部分が多く見られた(表7)。おそらく下位群の学生にとって、何が自分には課題であるかまで分析できても、それをどのように解決したらいいか、学習法や学習方略がわかっていないということが考えられる。

表7 Aグループ実験群の「改善が必要な項目及びその解決法」

内容	下位群		上位群	
	改善が必要な項目	解決法	改善が必要な項目	解決法
単語に関して	単語力	(記述なし)	わからない単語を減らしていく。	その場できちんと覚えていく
リスニングに関して	リスニングが全くできなかった	耳を慣らして頑張る	リスニングが苦手。なかなか聞き取れない。	普段から英語を耳に入れる(音楽とか?)
本文に関して	訳が直訳で意味の分からない部分があった	頑張って訳してくる	本文理解(最初のほう)	わからない単語は調べる。ココ・チャンネルについて調べる。
発音に関して	発音をもっとよくしていきたい	発音練習をもっとする	t h の発音。	すごく難しい。家に帰って練習。/s/と/th/の区別がつけられるように。
文法に関して	文法のこと	(記述なし)	時制などはわかっていたけど、まだ語順があいまい。	高校英語(基礎)に振り返る。

以上の結果から、統制群の記述部分は、メタ認知能力を必要とするレベルの内省活動を求めているなかったために、上位群と下位群の間で振り返りの観点やレベルに差は見られなかったと考えられる。一方、実験群では、学習方略にまでかかわるメタ認知能力を必要とする内省活動の記述を求めた。その結果、上位群では「何ができたか」「改善が必要な項目」に対して具体的な記述ができていたが、下位群では具体的な記述ができていなかった。上位群の「解決法」は決して十分なものとはいえないも

の、記述はできていることはできていた。一方、下位群では「解決法」に関する記述はほとんどできていない。いずれにせよ、今回実験群に求めた記述内容は、高いメタ認知能力が必要とされるため、下位群の学習者には難しかったと考えられる。しかしながら、内省活動を行うにはこのメタ認知能力が必要である。今後、下位群に対しては効果的な内省活動を行いやすいような言語学習記録の改善が必要である。

5. 結論

本研究の結果、リサーチクエスション (RQ1~RQ4) の回答として以下の4点を報告する。

- RQ1:** 言語学習記録のタイプが、簡易型であろうと記述型であろうと、学習者は自分の学習の振り返りができた。
- RQ2:** 自分の言葉でより多くを書く記述型の言語学習記録のほうが学習の振り返りという点ではより有効的である。
- RQ3:** 言語学習記録を書くことにより、学習者は、その日の学習の目標設定の把握、自分の学習に対する課題や進捗状況の把握、学習に対するモチベーションの向上などの変化が見られた。しかしながら、言語学習記録を書くだけでは、自分の学習への改善にはつながりにくい。自分の言葉で書くことが多い記述型言語学習記録の方がその効果や反応は大きい。
- RQ4:** 学習者は、授業中に行ったタスク活動や学習内容に関する側面に注目して学習を振り返っていることが多かったが、学習者自身に関する事、他の学習者に対しての振り返りも見られた。自分の学習を振り返る際には、メタ認知能力が必要であり、メタ認知能力のない学習者にとっては、自分の学習の課題や解決策を自分の言葉で述べることはハードルが高いと思われる。

本研究は学習者が言語学習記録を書くことにより、自分の学習に対する振り返りにつながることが確認できた。また、単に選択するより、学習者自身が自分のことばで内省するほうがより効果的であったことが証明された。

一人一人の学習者の言語学習記録を毎回読み、コメントを書くことは時間をとる作業であった。しかしながら言語学習記録を通し、学習者の能力やレベルを把握することができただけでなく、教室内では決して知ることができなかった学習者の声も聞くことができ、それぞれを一人の学習者としてよりよく理解することができた。学習者自身の振り返りを理解することは、自分自身の授業を振り返ることにもつながり、その結果教師自身の成長 (teacher growth) にもつながったと感じている。

最後に今後の課題について述べる。1点目は、学習者の内省活動を行うには高いメタ認知能力が必要となる。しかしながら、本研究でも確認されたが、十分なメタ認知能力を伴わない学習者にとって、自分の学習の改善点や学習方略を記述するような振り返りは困難である。今後十分なメタ認知能力を伴っていない学習者にも、より深い内省活動につながるような言語学習記録の開発と教育的介入を考える必要である。

2点目は、学習者は自分の学習を振り返ったものの、その後、学習者がどのような行動をしたかまでは本研究では確認していない。本研究が用いた言語学習記録は、振り返りを行わせたものの、そのあとどうつなげるかまでには追及していないものであるし、また授業でも学習者の次のステップを確認することはなかった。

3点目は、言語学習記録のタイミングである。本研究は毎授業後に言語学習記録を書かせたが、毎授業後ではなく、たとえば一つの活動もしくはプロジェクトが終わった後に、記録させたほうが自分の学習プロセスをより明確に振り返ることができたかもしれない。はじめは意欲的に書いているものの毎回書かせることは学習者によっては慣れてしまい適当に書いてしまう学習者もいる。あるいは授業によっては活動が途中で終わる場合もある。その場合、言語学習記録に書きづらい部分もある。いずれにせよ、言語学習記録を書くタイミングは今後検証が必要である。

引用文献

- ブルーアー. J.T (1997). 『授業が変わる—認知心理学と教育実践が手を結ぶとき—』 北大路書房.
- 金孝卿 (2006). 「日本語教室の「セルフ内省」活動における学習プロセスの実態：内省の観点とレベルに焦点を当てて (第 32 回日本言語文化学会発表要旨)」『言語文化と日本語教育』 第 32 号, 82-85.
- 清田洋一 (2012). 「英語リメディアル教育におけるポートフォリオの活用—英語学習における自律性の向上—」『明星大学研究紀要・教育学部』 第 2 号, 43-57.
- 峯石緑 (2002). 『大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究』 溪水社.
- 下絵津子 (2006). 「第 2 言語教育におけるポートフォリオの活用」『宮崎公立大学人文学部紀要』 第 14 巻第 1 号, 149-167.
- 米田佐紀子・西村洋一・細川真衣 (2014). 「高校生の英語学習に対するポートフォリオの影響の検証」『中部地区英語教育学会紀要』 第 43 号, 117-124.
- Apple, M. (2006). Developing autonomous habits with extensive listening. In E. Skier& M. Kohyama(Eds.), *Teacher and learner autonomy in Japan, Vol2: More autonomy you ask!* (pp.33-45). Tokyo: Japan Association for Language Teaching, Learner Development Special Interest Group.
- Eric, D. (2011). Portfolio Power: Building student confidence, motivation, and reflection in the ESL classroom. *J.Higher Eudcation, Tokai University (Hokkaido Campus) 6*. 1-9.
- Kohonen, V. (2002). Student autonomy and the teacher's professional growth: Fostering collegial culture in language teacher education. Paper presented in Dublin University, Trinity College, at a learner autonomy symposium. Retrieved from http://www.script.men.lu/activinno/portfoli o/kohonen_student_autonomy.pdf (20 July, 2014)

Appendices

Appendix1 記述型言語学習記録

Today's Date	Student Number
--------------	----------------

Your Name _____

1 Do you think you worked hard for today's assignment?

1. Yes, very much. 2. Yes. 3. So-So. 4. No. 5. Not at all.

2 How long did you spend your time preparing for today's lesson (including review and homework)?

_____ minutes/hour(s)

Write your score of the review test. _____ points

3 Today's goal:

_____ /5

4 Do you think you understood today's lesson?

1. Yes, very much. 2. Yes. 3. So-So. 4. No. 5. Not at all.

5 What I did in today's lesson

_____ /5

6 What I still need to improve (改善が必要なこと)

→solution if you have (もしあればその解決法)

Appendix2 簡易型言語学習記録

Today's Date	Student Number
--------------	----------------

Your Name _____

• Do you think you worked hard for today's assignment?

1. Yes, very much. 2. Yes. 3. So-So. 4. No. 5. Not at all.

• How long did you spend your time preparing for today's lesson (including review and homework)?

_____ minutes/hour(s)

• Do you think you worked hard for today's lesson?

1. Yes, very much. 2. Yes. 3. So-So. 4. No. 5. Not at all.

• Do you think you achieved today's lesson?

1. Yes, very much. 2. Yes. 3. So-So. 4. No. 5. Not at all.

• Do you think you understood today's lesson?

1. Yes, very much. 2. Yes. 3. So-So. 4. No. 5. Not at all.

• In today's lesson, what activity do you find difficult (or easy or enjoyable)?

